2023年度

教育課程

学校法人 医療創生大学
岡山・建部医療福祉専門学校

学籍番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【 教育課程 目次 】

Ⅰ 教育理念 ---------- 1

Ⅱ 教育目的・目標 ---------- 1
1．教育目的 ---------- 1
2．教育目標 ---------- 1
3．看護の主要概念 ---------- 2
4．学年別目標 ---------- 3

Ⅲ 学科進度表 ---------- 4

Ⅳ 教育課程概要 ---------- 6
1．教育課程とは ---------- 6
2．教育課程の構成 ---------- 6

Ⅴ 教育課程シラバス（臨地実習を除く） ---------- 15～22

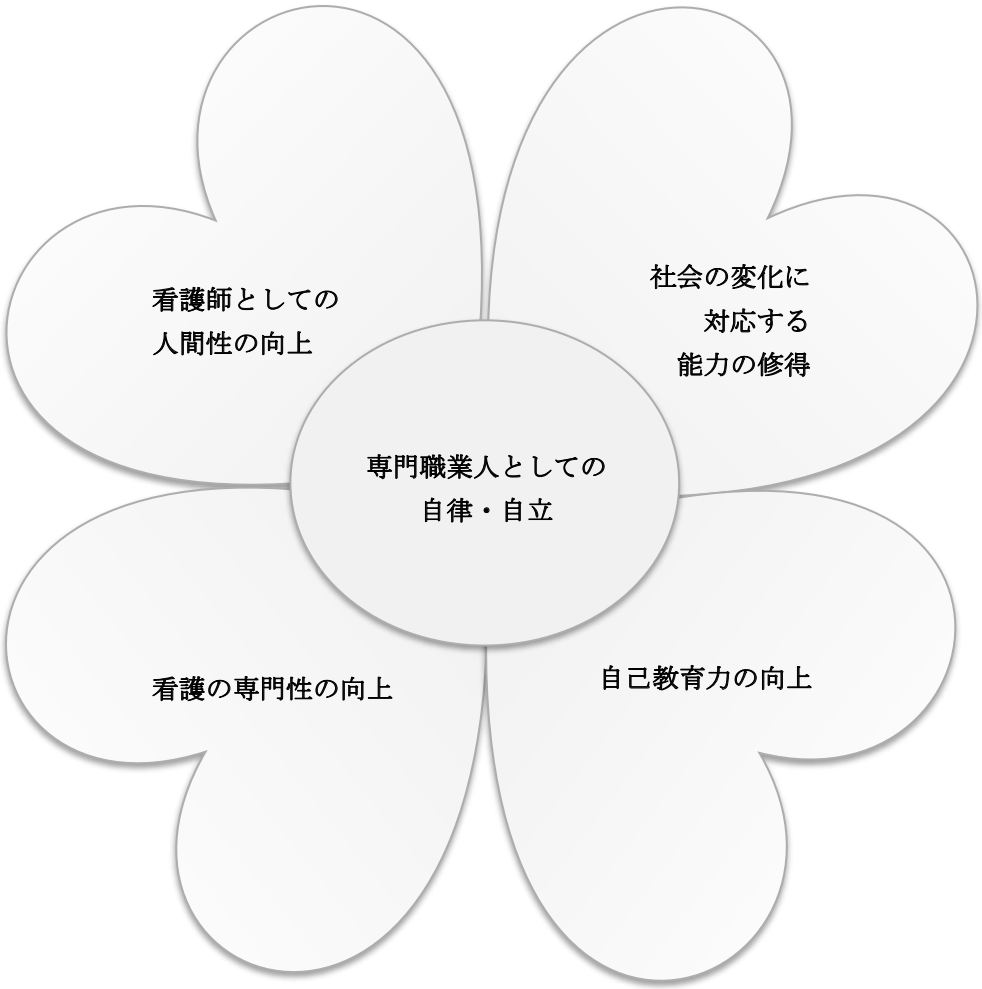
【 Ⅴ 教育課程 シラバス 目 次 】

1．基礎分野
死生学 ---------- 17

2．統合分野
看護管理 ---------- 21
災害・国際看護学 ---------- 22

Ⅰ　教育理念

葵会グループの「“治す”と“防ぐ”を高いレベルで両立し、健康な人生をトータルにケアしていく医療をめざす」の理念のもとに、人間の尊厳と権利を守り、あらゆる健康レベルにある人々に対して、真摯な態度で看護を提供できる人材を育成する。



Ⅱ　教育目的・目標

1. 教育目的

看護に必要な知識・技術・態度を修得し、豊かな感性と自己教育力を養い、保健医療福祉の向上と国際社会および地域社会で貢献できる有能な看護師を育成する。

2. 教育目標

1）生命の尊厳と人権・人格を尊重する倫理観を有し、思いやりのある自立性の高い人間を育成する。
2）人間を取り巻く環境の変化に対応しながら、看護の対象を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面をもつ統合された存在として理解する力を養う。
3）看護の視座に立ち、人間の健康問題に対する判断力と実践力を養う。
4）看護職としての役割と責任を認識し、保健医療福祉チームにおいて協働・連携できる能力を養う。
5）専門職業人として生涯にわたって看護を探求し、自己教育力を養う。

3. 看護の主要概念

自己教育力と看護実践能力を備えた看護師の育成

人間

① 人間は、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面をもった統合的存在である。
② 人間は、成長発達する存在である。
③ 人間は、基本的ニードをもつ存在である。
④ 人間は、環境と相互作用し、環境の中で生活する。
⑤ 人間は、価値観・自律性・独自性を持つ存在である。
⑥ 人間は、受胎から死に至ってもなお永遠に尊厳をもつ存在である。

環境

① 環境には、外的環境・内的環境があり、人間の生活に相互に影響しあう。
② 外的環境には自然環境・社会環境があり、これらは相互に影響しあう。
③ 内的環境とは、生体の内部環境である。
④ 生体の内部環境は相互に影響しあい、人間の生命現象に深く関与する。
⑤ 外的環境は、内的環境の恒常性の維持に関与する。
⑥ 環境は時間と共に変化し、環境と人間の相互作用は環境の変化に深く関与する。

健康

① 健康とは、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルに調和がとれた状態である。
② 健康は、人間が生きていくうえでの基本的人権であり、社会システムの中で保障されるべきである。
③ 健康の状態は、人間と環境の相互作用に影響する。
④ 健康には、最良の状態から死までの連続的なレベルの変化があり、たえず流動する。
⑤ 健康の水準は一般的・抽象的なものではなく、個別的なものである。
⑥ 病気という状態は、環境に対し生体の恒常性を維持できないときに出現する。

看護

① 看護の対象は、健康を保つために環境との相互作用を重ねている人間である。
② 看護の目標は健康への到達・保持・回復・疾病の予防、あるいは死に臨む人間の安寧に向けて、個人ならびに集団を援助することである。
③ 看護とは、看護実践による目標達成に向けた、看護師と対象との相互作用の過程である。
④ 看護は生命の尊厳を重んじて、人間の基本的ニードにかかわる潜在的問題・顕在的問題に関与する。
⑤ 看護は、対象の健康上の問題を明らかにし、その問題を解決するために意図的・系統的に働きかけることである。
⑥ 看護師は、専門職として独自の機能を有し、保健・医療・福祉チームの中で他職種と協働する。

教育

① 教育は、個人の潜在能力を最大限に発揮できるよう支援することであり、教えるものと学修者との相互関係の中で、ともに学び成長することである。
② 教育は、学修者の可能性を引き出し、その可能性を学修者自身が主体的に伸ばしていけるように支援することである。
③ 教育とは、知識・技術・態度を育む意図的な働きかけである。
④ 問題解決能力を身につけることにより、自己教育力を育む。

4. 学年別目標

1 年次

1)他者に関心をもち、積極的にコミュニケーションがとれる。
2)健康の概念および看護の概念が理解でき、看護に必要な基本的知識が理解できる。
3)主体的な学習習慣を確立できる。
4)教科外活動・集団生活を通して、協調性・自立性・人間性を養う。

2 年次

1)自己を理解するとともに、他者に対する配慮、気配りができる。
2)対象の顕在的・潜在的健康問題を診断し、健康課題に応じた看護過程の展開ができる。
3)基礎看護技術を対象の状態・状況合わせて安全・安楽に実施できる。
4)問題意識をもって積極的に課題に取り組むことができる。
5)看護を学ぶ者として責任ある行動がとれる。

3 年次

1)習得した看護技術を対象者の基本的ニーズ充足のために活用できる。
2)個人の尊重を基盤に人間関係を築き、維持・発展していくことができる。
3)対象者のライフサイクルや、健康レベルに応じた看護が実践できる。
4)対象者の個別性に応じた看護過程が展開できる。
5)保健・医療・福祉チームにおける他職種との連携・調整・協働の必要性を認識し、看護の役割と責任が理解できる。
6)理論と実践の統合をはかり、自己の看護観を確立できる。
7)自分自身の行動に対する評価が適切に行え、自己の課題を明確にし、主体的行動ができる。

卒業時

1. 豊かな人間性を備え、思いやりをもって行動できる。
   1)多様な価値観をもつ他者に関心をもち、積極的に関わろうとする姿勢がある。
   2)お互いに相手を大切にし、協力し助け合う姿勢がもてる。
   3)人間を尊重し、すべての人と良好な人間関係を築くことができる。
2. 専門職業人として生命の尊厳と人権を擁護する行動がとれる。
   1)自己及び他者のあらゆる生命を尊ぶ姿勢がもてる。
   2)看護師として生命の尊厳を守るため、生命の安全を第一とした選択ができる。
   3)看護師として対象の人権を考えた倫理的行動がとれる。
3. 地域社会や他職種に関心をもち、保健・医療・福祉チームの一員として貢献できる。
   1)看護専門職として地域活動に積極的に参加し、社会的活動ができる。
   2)国際社会や保健・医療・福祉の動向に関心をもち、広い視野で物事を見据えた行動ができる。
4. 自律して看護実践できる。
   1)問題解決能力を備え、専門職業人として対象に応じた判断ができ、看護実践ができる。
   2)自分の行動を適切に評価し、改善するために誠実に行動できる。
   3)変化する社会に対応するために自己研鑽する姿勢がもてる。

Ⅲ　学科進度表

教育課程		授業科目	単位数	時間数	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期
基礎分野	科学的思考の基盤	看護物理学	1	15	15					
		統計学	1	30		30				
		情報科学	1	30		30				
		生命倫理学	1	30				30		
		教育学	1	15		15				
		医療英語Ⅰ	1	30	30					
		医療英語Ⅱ	1	30		30				
	人間と生活・社会の理解	社会学	1	15		15				
		人間関係論	1	30		30				
		論理学	1	30		30				
		心理学	1	30	30					
		死生学	1	30						30
		保健体育	1	30	30					
		基礎分野　小計	13	345	105	180	0	30	0	30
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ　人体構造・生理学・栄養と吸収・呼吸と血液	1	30	30					
		解剖生理学Ⅱ　血液と循環の調整・体液調整・内臓機能の調整	1	30	30					
		解剖生理学Ⅲ　体の支持と運動・外部環境からの防御・生殖・発生と成長・老化の仕組み	1	30	30					
		解剖生理学Ⅳ　神経系・感覚器・体表から見た人体構造	1	30		30				
		生化学	1	15	15					
		栄養学	1	15	15					
		薬理学	1	30		30				
		病理学	1	30		30				
		微生物学	1	30	30					
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態生理学Ⅰ　概論・皮膚・免疫	1	30	30					
		病態生理学Ⅱ　体液・血液	1	30		30				
		病態生理学Ⅲ　循環・呼吸	1	30		30				
		病態生理学Ⅳ　消化器・腎・泌尿器	1	30		30				
		病態生理学Ⅴ　内分泌・代謝・生殖器	1	30		30				
		病態生理学Ⅵ　脳・神経・筋・感覚器	1	30		30				
	健康支援と社会保障制度	リハビリテーション論	1	30			30			
		総合医療論	1	15			15			
		医療経済論	1	15		15				
		看護関連法令	1	15				15		
		社会保障	1	15		15				
		公衆衛生学	1	30				30		
		専門基礎分野　小計	21	540	180	270	45	45	0	0
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1	30	30					
		看護理論	1	30		30				
		基礎看護学援助論Ⅰ　対人関係成立の技術	1	30	30					
		基礎看護学援助論Ⅱ　療養環境に関する技術	1	30	30					
		基礎看護学援助論Ⅲ　安楽・活動と休息に関する技術	1	30	30					
		基礎看護学援助論Ⅳ　清潔・栄養・排泄に関する技術	1	30	30					
		基礎看護学援助論Ⅴ　観察技術(フィジカルアセスメントに関する技術)	1	30		30				
		基礎看護学援助論Ⅵ　検査・与薬に関する技術	1	30		30				
		基礎看護学援助論Ⅶ　看護過程	1	30		30				
		基礎看護学援助論演習	1	30			30			
		専門分野Ⅰ学内　小計	10	300	150	120	30	0	0	0
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	45					
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90				90		
		専門分野Ⅰ臨地実習　小計	3	135	45	0	0	90	0	0
		専門分野Ⅰ　小計	13	435	195	120	30	90	0	0
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論　看護の対象と目的	1	30		30				
		成人看護学援助論Ⅰ　生活行動に障害のある患者の看護	1	30			30			
		成人看護学援助論Ⅱ　周手術期にある患者の看護	1	30			30			
		成人看護学援助論Ⅲ　緩和ケアを必要とする患者の看護	1	30				30		
		成人看護学援助論Ⅳ　生命の危機的状態にある患者の看護	1	30				30		
		成人看護学援助論Ⅴ　生涯にわたり健康コントロールを必要とする対象者の看護	1	30			30			
		小計	6	180	0	30	90	60	0	0
	老年看護学	老年看護学概論　看護の対象と目的	1	30		30				
		老年看護学援助論Ⅰ　老年期の日常生活援助	1	30			30			
		老年看護学援助論Ⅱ　老年期の健康障害時の看護	1	30			30			
		老年看護学援助論Ⅲ　老年期の健康障害時の援助技術(看護過程)	1	15				15		
		小計	4	105	0	30	60	15	0	0
	小児看護学	小児看護学概論　看護の対象と目的	1	30		30				
		小児看護学援助論Ⅰ　小児の療養環境と看護	1	30			30			
		小児看護学援助論Ⅱ　小児の主な疾患と看護	1	30			30			
		小児看護学援助論Ⅲ　疾患・障害を持つ小児と家族の援助技術(看護過程)	1	15				15		
		小計	4	105	0	30	60	15	0	0
	母性看護学	母性看護学概論　看護の対象と目的	1	30			30			
		母性看護学援助論Ⅰ　妊産褥婦・新生児の生理機能	1	30			30			
		母性看護学援助論Ⅱ　妊産褥婦の看護と周産期にあるハイリスクの看護	1	30			30			
		母性看護学援助論Ⅲ　妊産褥婦・新生児の援助技術(看護過程)	1	15				15		
		小計	4	105	0	0	90	15	0	0
	精神看護学	精神看護学概論　看護の対象と目的	1	15		15				
		精神看護学援助論Ⅰ　精神疾患の理解と治療	1	30			30			
		精神看護学援助論Ⅱ　精神看護の実際とその倫理	1	30			30			
		精神看護学援助論Ⅲ　精神障害のある患者の援助技術(看護過程他)	1	15				15		
		小計	4	90	0	15	60	15	0	0
	臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	2	90				90		
		成人看護学実習Ⅱ	2	90					90	
		成人看護学実習Ⅲ	2	90					90	
		老年看護学実習Ⅰ	2	90				90		
		老年看護学実習Ⅱ	2	90				90		
		小児看護学実習(保育園実習30時間含む)	2	90					90	
		母性看護学実習	2	90					90	
		精神看護学実習	2	90					90	
		専門分野Ⅱ臨地実習小計	16	720	0	0	0	270	450	0
		専門分野Ⅱ　小計	38	1305	0	90	360	390	450	0
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論　看護の対象と目的	1	30			30			
		在宅看護援助論Ⅰ　在宅療養者関連する制度と展開	1	15			15			
		在宅看護援助論Ⅱ　在宅における日常生活援助技術と実際	1	30				30		
		在宅看護援助論Ⅲ　在宅援助技術(看護過程)	1	15				15		
		小計	4	90	0	0	45	45	0	0
	看護の統合と実践	医療安全論	1	30				30		
		看護管理	1	30					30	
		災害・国際看護学	1	30					30	
		看護研究	1	30				30		
		統合看護演習	1	30				30		
		小計	5	150	0	0	0	90	60	0
	臨地実習	在宅看護論実習	2	90						90
		統合実習	2	90						90
		統合分野　臨地実習　小計	4	180	0	0	0	0	0	180
		統合分野　小計	13	420	0	0	45	135	60	180
総計			98	3045	480	675	480	690	510	210
総計			各学年総時間数		1155		1170		720	

98単位内訳（座学　75科目75単位、臨地実習　12実習23単位）
1年次42単位：内訳(座学 41科目41単位、臨地実習　1実習1単位)
2年次38単位：内訳(座学 30科目30単位、臨地実習　4実習8単位)
3年次18単位：内訳(座学　4科目 4単位、臨地実習　7実習14単位)

教科外活動

目的：教科外活動を通して、看護学生としての自覚及び協調性を養い、豊かな人間性を育む。

活　動　名	3年次	ね　ら　い
卒業式	2時間	本校の全課程修了者の証書を授与し、本校の卒業生として自覚と誇りを持ち、社会人・専門職業人となっていくことの自覚を持つ。
ガイダンス	2時間	自己評価を基に振り返り、今後の課題を明確にするとともに、学習計画を立てる。
国家試験対策	48時間	多くの問題に挑戦し、国家試験の傾向と対策をつかみ、国家試験に合格する。
教育講演	2時間	見聞を広め、豊かな感情を育て、自己成長につなげる。
ネットモラル研修	2時間	他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつことや、危険回避など情報を正しく安全に利用できる。
防災訓練	2時間	防災意識を高め、災害発生時における自己の身を守るとともに、看護学生としての役割を考える。
健康診断	4時間	学校保健法に基づき、各自の健康管理と衛生管理について認識を高め、自己の健康の保持増進を目指す機会とする。
地域交流	2時間	地域の人とふれあい地域の中の一員としての自覚を育む。
ホームカミングディ	4時間	主体的・計画的に取り組むことで協調性や責任感を養い、学生間の親睦を図る。
キャリア教育	4時間	専門職業人としての自己のキャリア形成を考える。
HR	18時間	教科外活動やクラス運営を円滑にするための時間として設定する。
合計時間	90時間	

Ⅳ 教育課程 概要

1. 教育課程とは

学校の教育目的・目標を達成するために必要な教育内容を学習者の進度に合わせて組み立てた教育活動の計画を教育課程という。その内容には「教科課程」と「教科外活動」がある。

2. 教科課程の構成

1)学科目の位置づけ

〈基礎分野〉

基礎分野は、「科学的思考の基礎」「人間と生活・社会の理解」の学びが求められている。

この分野は入学直後から学修する科目が多く、看護を学修するのに関連する内容であるとともに、看護を実践する者としての人間成長に必要な内容とした。特に看護の対象である人間理解と、サービス提供の基礎となるコミュニケーション、健康理解のために自己の心身の活用方法に重点を置く内容とした。

「科学的思考の基盤」は、論理的に推考し、科学的思考を高め、感性を磨き、自由で主体的な判断と行動を促す内容、及び国際化・情報化への対応しうる能力を養えるような内容を含め、本校の教育課程では「看護物理学」「統計学」「情報科学」「生命倫理学」「教育学」「医療英語Ⅰ」「医療英語Ⅱ」の７科目を設定した。

「人間と生活・社会の理解」は、看護の実践には不可欠である人間を幅広く理解するための洞察力を養う科目、及び人間の生活・社会を理解するための科目として、本校の教育課程では、「社会学」「人間関係論」「論理学」「心理学」「死生学」「保健体育」の６科目を設定した。

〈専門基礎科目〉

専門基礎分野は看護の対象である人間を生命体として捉え、その発生・構造・機能とその障害を学び、さらに社会の中で生きる人として捉えながら、人間理解と看護実践の基礎となる科目を設定した。またセルフケア能力を高めるために必要な教育的役割や地域における社会資源活用や関係機関などとの連携・マネージメント能力の向上につながる内容とした。

「人間の構造と機能」は、対象となる人間の構造と働きや心身に影響を与える要因について理解し、看護活動の中心となる知識を養う科目として、本校の教育課程では、「解剖生理学Ⅰ～Ⅳ」の４科目を設定した。

「疾病の成り立ちと回復促進」は、看護の対象である「人間」が疾病を持ち、治療を受ける存在と定義し、その疾病とは何か、生活者としての患者に与える影響を学ぶ内容とし、本校の教育課程では「生化学」「栄養学」「薬理学」「病理学」「微生物学」「病態生理学Ⅰ～Ⅵ」の１１科目を設定した。

「健康支援と社会保障制度」は、看護活動を行う上で、社会との契約でもある法的根拠を学び、看護活動と社会資源などの連携を学ぶ内容とした。また疾病の危機的状態だけでなく、健康支援としての回復支援者としての看護能力を養える内容とし、本校の教育課程では、「リハビリテーション論」「総合医療論」「医療経済論」「看護関連法令」「社会保障」
「公衆衛生学」の６科目を設定した。

〈専門分野Ⅰ〉

基礎看護学は、基礎分野、専門基礎分野を学んだ上で、専門分野である各領域に共通する看護の基礎的知識・技術・態度を学ぶものとして、看護の概念、サービスの本質を学び、人間を統合体として捉え、生活者として理解する。そして、科学的、論理的な思考を持って根拠に基づく看護援助について学ぶ。また看護に携わる専門職業人としての自覚や、専門領域の基礎を修得することをねらいとして位置づけた。

また、専門分野Ⅰである基礎看護学は、専門分野Ⅱや統合分野の土台であり、各看護学の基礎となる内容とした。「看護学概論」「看護理論」で看護を構成する概念および看護理論から捉える看護の役割を学ぶ。さらに、看護実践の基礎となる「基礎看護援助論Ⅰ～Ⅶ」において基礎的知識・技術・態度を修得する。特に「基礎看護援助論」は、対象の生活を整えるのに必要な技術として教授し、専門分野Ⅱ、統合分野の学修が効果的に進むように設定した。臨地実習は、観察・コミュニケーションの基本技術を用いて、日常生活行動の援助技術を学び、看護過程の展開を２年次に行う。

当校における特色として、「基礎看護学援助論演習」を専門分野Ⅰに設定した。「基礎看護学援助論演習」においては、看護技術のエビデンスに基づき、基礎的知識・技術・態度を統合し、援助を実践するための基礎的能力を修得する。

〈専門分野Ⅱ〉

専門分野Ⅱでは、基礎分野、専門基礎分野および各看護学に共通する看護の基礎となる「基礎看護学」の学修と関連させながら、対象に応じた健康生活を支えるために必要な基礎から応用までの援助の理論と実践能力を修得し、人々の健康の維持・増進、疾病の予防・回復、安寧な死への援助等、様々な段階における看護実践能力を養う。

専門分野Ⅱは、「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「看護学実習」で成り立ち、専門職として必要な知識・技術・態度が修得できるようにする。

(1)成人看護学

成人看護学は、ライフスタイルにおける幅広い年齢層が対象である。社会的に重要な役割を担っている。この時期の健康障害は、ライフスタイルや職業など、本人のみならず、周囲に与える影響や負担も必然的に大きくなる。成人期の特徴を身体的・精神的・社会的な側面から統合的に理解し、健康段階のレベルに応じた看護実践の特徴を理解することをねらいとし、基礎的知識・技術・態度を修得することを目的とした。

本校では、「成人看護学概論」「成人看護学援助論Ⅰ～Ⅴ」の６科目を設定した。

(2)老年看護学

高齢社会における看護のニーズに対し、対象の尊厳を守り老年期特有の問題について理解し、より良い生活の継続を目指すことを目的とした。老年期では、その対象の今までの生活スタイルや今後の社会生活での目標を重視し、出来る限り対象自身で生活を維持できるように援助していくための基礎的知識・技術・態度を修得することを目的とした。

本校では、「老年看護学概論」「老年看護学援助論Ⅰ～Ⅲ」の４科目を設定した。

(3)小児看護学

少子化が進む我が国において、こどもたちの健康、健やかな成長発達は大きな課題である。小児期は人間について成長するための出発点であり、この時期の過ごし方が、その後の健康生活に大きな影響を与える。小児看護学は、このようなライフステージにある小児の健康の保持増進、健康の回復を促すとともに、すべての小児が、健全な成長・発達を遂げられるために必要な基礎的知識・技術・態度を修得することも目的とした。

本校では、「小児看護概論」「小児看護学援助論Ⅰ～Ⅲ」の４科目を設定した。

(4)母性看護学

各領域にまたがる人の一生の中で生殖に注目した様々な活動を対象とする。リプロダクションの意義を理解し、女性のライフスタイルに応じた看護を学ぶことを目的とした。特徴的な妊娠・出産・産褥・新生児の看護を通し、生命の尊厳や親子・家族の機能への認識を深めることをねらいとした。

本校では、「母性看護学概論」「母性看護学援助論Ⅰ～Ⅲ」の４科目を設定した。

(5)精神看護学

精神看護学の対象は、全てのライフスタイルにある人々である。精神の健康を害した対象の持つ回復能力を理解し、自立への看護を学ぶことを目的とした。また、精神障害において治療における影響は大きい。薬物や治療環境など身体・精神に与える影響を理解し、対象の社会復帰を促すために必要な基礎的知識・技術・態度を修得することを目的とした。

本校では、「精神看護学概論」「精神看護学援助論Ⅰ～Ⅲ」の４科目を設定した。

〈統合分野〉

(1)在宅看護論

地域で暮らすあらゆる健康レベルの人々の生活を支える看護を実践するために必要な基礎的知識･技術･態度を修得することを目的とした。在宅における日常生活援助の実際、地域包括ケアの機能と専門職種の連携及び社会資源の活用について学び、療養者とその家族の QOL の向上を考慮した看護援助の理解を学修する。

(2)看護の統合と実践

「看護の統合と実践」では、組織における看護師のマネージメント能力の重要性と実際について理解するとともに、災害時や国際社会の場における看護の役割の可能性について学修を充実させ、適切な判断・対応能力を強化する科目として、「医療安全論」「看護管理」「災害・国際看護学」を設定した。

「医療安全論」では、人は間違いをおかす存在であることを自覚した上でエラーを防止するために、看護業務や行為の視点から『してはならないこと』『すべきこと』を明確にし、患者の安全を守るために必要不可欠な知識・技術を修得する。

「看護管理」では、保健医療施設における組織的な看護サービス・管理の本質を学び、管理的思考や医療機関を取り巻く環境の変化と看護管理への影響を理解する。

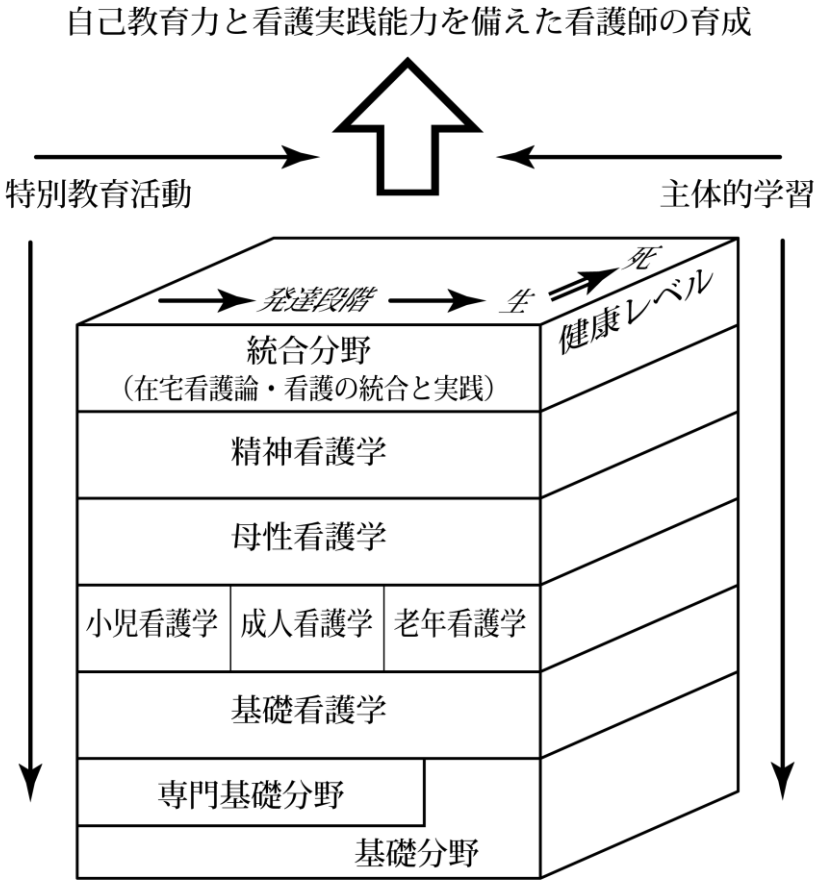
「災害・国際看護学」では、地域を守るための防災対策や看護について学び、看護師としての役割について理解する。

「看護研究」では、研究のための看護の実践ではなく、看護実践の質の向上のために研究が存在し、研究的思考を持って看護を実践することにより、対象への質の高い看護実践が提供できるよう位置づけた。

「統合看護演習」では、これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、複雑化する看護の現場に対応できるための準備段階として、実践の場をイメージでき、看護学実習に即した方法を用いて援助を行い、対象の状況に応じた判断による基礎的な実践能力を修得する。

看護学実習は、各看護学での実習を踏まえ、３年間の総まとめの位置づけとし、看護専門職としての活動を遂行するために備えておくべき看護実践能力を修得する科目として、総合実習を設定し、看護学の学修の総まとめとする。

教育課程構造図


自己教育力と看護実践能力を備えた看護師の育成
特別教育活動
主体的学習
発達段階
生
死
健康レベル
統合分野
（在宅看護論・看護の統合と実践）
精神看護学
母性看護学
小児看護学
成人看護学
老年看護学
基礎看護学
専門基礎分野
基礎分野

2)学科目一覧

領域	区分	単位	時間数	授業科目の名称	学習のねらい
基礎分野	科学的思考の基盤	1	15	看護物理学	安全で適切な看護行為を実施するために、バイオメカニクスである人体の運動力学や医療機器の作動原理を学ぶ。
		1	30	統計学	事実事象を論理的・科学的に把握・分析し、客観的に表現するための手段として保健統計学の基礎的手法や標準的手法等を理解する。看護研究に統計学が有用であることを理解し、活用法を学ぶ。
		1	30	情報科学	情報の整理、情報の利用について正しく理解し、インフォームドコンセントや情報開示などの患者の自己決定の支援や患者の尊厳を守るという立場から、医療の進歩と同時に情報科学の進歩も医療を支えている事を理解する。情報を取り扱うものとしてのモラルについて学ぶ。
		1	30	生命倫理学	医療や生命科学に関する倫理的、哲学的、社会的諸問題を知り、生命倫理について理解する。
		1	15	教育学	望ましい人間形成のあり方、人間の可能性に向けての教育の意義を理解し、看護における教育活動に応用するための方法を理解する。
		1	30	医療英語Ⅰ	コミュニケーションに必要な基礎的な文法項目を知り、医療・看護場面における日常英会話の基礎を理解する。英会話を通して、外国の人々に積極的に関わろうとする態度を身に付ける。
		1	30	医療英語Ⅱ	基礎的な医療・看護用具を使って、臨床場面で簡単な会話を行い、コミュニケーション能力を高める。英語で書かれた医療・看護に関する文献を読解するための基礎を学ぶ。
	人間と生活・社会の理解	1	15	社会学	社会的存在としての人間を理解する。具体的には自己を取り巻く地域・社会・文化がどのように変化し、また我々の生活にいかなる影響を及ぼしているのかを理解する。
		1	30	人間関係論	保健医療における連携・協働の意義を理解し、保健・医療・福祉において人間関係が大きく影響することを理解する。人はそれぞれ価値観を有する存在であることを理解し、コミュニケーション技術や自己の人間形成が人間関係に不可欠であることを学ぶ。
		1	30	論理学	論理的思考および言語表記について学び、思考の矛盾や妥当性を判断する能力を習得する。
		1	30	心理学	人間の心理や行動の基礎にある原理を理解し、自己自身を良く理解する方法を学ぶ。患者や家族の心理を理解するために、こころの動き、行動、性格、情緒など、人間の心理や行動の基礎にある原理を学ぶ。
		1	30	死生学	社会的な背景や伝統の影響を踏まえ、生と死2面性を明確に意識し、社会の広がりと自己の内面とを考慮し、死生観を育む。また死を迎える人と取り巻く人々に対する考え方を学ぶ。
		1	30	保健体育	健康の保持増進や疾病の予防を図り、生きがいのある生活を送るための運動・スポーツの有能性を知り、運動・スポーツを理解する。心身の健康を保持するための具体的な運動を体験し体力の向上を目指す。
専門基礎分野	人体の構造と機能	1	30	解剖生理学Ⅰ （人体構造・生理学・栄養と吸収・呼吸と血液）	解剖学と生理学は、医学の体系のなかでも基礎中の基礎となる領域であり、解剖学によって人体の形態と構造、生理学によって役割と機能について習得する。 ・人体と細胞、生命維持システム、運動・調節システムについて学ぶ。 ・栄養の消化と吸収について学ぶ。 ・呼吸と血液のはたらきについて学ぶ。
		1	30	解剖生理学Ⅱ （血液と循環の調整・体液調整・内臓機能の調整）	解剖学と生理学は、医学の体系のなかでも基礎中の基礎となる領域であり、解剖学によって人体の形態と構造、生理学によって役割と機能について習得する。 ・血液と循環とその調整について学ぶ。 ・体液の調整と尿の再生について学ぶ。 ・内臓機能の調整について学ぶ。
		1	30	解剖生理学Ⅲ （体の支持と運動・外部環境からの防御・生殖・発生と成長・老化の仕組み）	解剖学と生理学は、医学の体系のなかでも基礎中の基礎となる領域であり、解剖学によって人体の形態と構造、生理学によって役割と機能について習得する。 ・からだの支持と運動について学ぶ。 ・外部環境からの防御について学ぶ。 ・生殖・発生と成長と老化の仕組みについて学ぶ。
		1	30	解剖生理学Ⅳ （神経系・感覚器・体表から見た人体構造）	解剖学と生理学は、医学の体系のなかでも基礎中の基礎となる領域であり、解剖学によって人体の形態と構造、生理学によって役割と機能について習得する。 ・情報の受容と処理について学ぶ。 ・体表からみた人体の構造について学ぶ。
		1	15	生化学	基礎分野における生命現象の科学の学修を基に、生命活動を支える細胞や生体物質の構造および生理機能と食物として外界から取り込んだ物質の利用、すなわち代謝とその調節について学ぶ。
		1	15	栄養学	人間にとっての栄養の意義と食生活のあり方に基づき、食事療法の基礎的知識を習得する。
		1	30	薬理学	現代医療においては治療の目的で多種の医薬品が、様々な方法によって患者に投与されている。医療における薬物治療の占める割合は非常に大きく、直接的に患者に関わる看護師は薬理作用や体内動態、副作用や毒性、薬物漏出の危険性などの知識を習得する必要がある。薬剤に関する知識を理解し、服薬・注射・点滴等による与薬や副作用・アレルギー等の観察など、看護師が実施する看護技術の基本について理解する。
		1	30	病理学	対象を理解しより良いケアを行うためには、病理学の知識をもつ必要がある。人体の構造と機能において正常から逸脱する場合の様々な症状・徴候のメカニズムに共通する現象を理解する。主な症状・徴候のメカニズムを理解する。
		1	30	微生物学	環境には、様々な微生物が存在するが、その中で病原微生物を中心に構造、機能、観察方法、増殖感染、治療薬、免疫、滅菌消毒方法を学ぶことで、感染症の現状や院内感染予防等に対する専門的知識を習得する。

領域	区分	単位	時間数	授業科目の名称	学習のねらい
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	1	30	病態生理学Ⅰ （概論・皮膚・免疫・体温）	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・病態生理の基礎知識を学ぶ。 ・皮膚・体温調節に関する疾患と治療について学ぶ。 ・免疫に関する疾患と治療について学ぶ。
		1	30	病態生理学Ⅱ （体液・血液）	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・体液に関する病態と治療について学ぶ。 ・血液に関する疾患の病態と治療について学ぶ。
		1	30	病態生理学Ⅲ （循環・呼吸）	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・循環器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。 ・呼吸器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。
		1	30	病態生理学Ⅳ （消化器・腎・泌尿器）	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・消化器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。 ・泌尿器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。
		1	30	病態生理学Ⅴ （内分泌・代謝・生殖器）	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・内分泌に関する疾患と治療について学ぶ。 ・代謝・生殖器に関する疾患の病態と治療ついて学ぶ。
		1	30	病態生理学Ⅵ （脳・神経・筋・感覚器）	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・脳・神経・筋に関する疾患の病態と治療について学ぶ。 ・感覚器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。
	健康支援と社会保障制度	1	30	リハビリテーション論	人間が人間としての権利を回復する活動としてのリハビリテーションの概念と意義を学び、リハビリテーションの方法を理解する。
		1	15	総合医療論	医学・医療の歴史および医療の現状と課題を学ぶことで、医療・看護の原点はどこにあるか、生命とは何か、健康とは、病気とはなど幅広い視点から保健・医療・福祉を理解する。
		1	15	医療経済学	社会における医療の役割、問題点とその背景を医療経済の視点から考察する。
		1	15	看護関連法令	看護師に必要な保健・医療・福祉に関する諸制度とその関係法規について学び、看護の役割及び与えられた責務を正しく遂行するために、看護業務に関する法律を理解できる。
		1	15	社会保障	社会保障制度・社会福祉制度は、医療福祉の総合的サービスの供給体制における連携が重要である。保健・医療・福祉チームの一員として対象の生活へのトータルケアマネジメントの視点を持ち、その役割と機能を学ぶ。
		1	30	公衆衛生学	公衆衛生の概念と歴史を学び、生活者の健康保持・増進のための公衆衛生活動を理解する。 保健行政活動や疾病の疫学と予防をについて理解する。
専門分野Ⅰ	基礎看護学	1	30	看護学概論	看護の歴史を概観するとともに「人間」「環境」「健康」「看護」の概念をもとに看護の対象である人間理解、健康の概念、看護とは何かを学ぶ。さらに看護観を培うことの意義を学習する。
		1	30	看護理論	理論とは、諸現象間の関係について記述し、説明し、予測するために体系づけられた見解である。理論は、現実世界を代表する言葉や象徴から校正される。看護理論には、看護を構成する人間、環境（社会）、健康、看護の概念が含まれており、それらの概念を、看護実践の基礎的な考え方として理解した上で、看護理論を通して看護を研究的視点で実践することの必要性を理解する。
		1	30	基礎看護学援助論Ⅰ （対人関係成立の技術）	1. 人間関係成立・発展のための技術を学び、患者及び家族－看護師関係について理解する。 2. ヘルスケアの指導の基礎を学び、看護における教育・指導について理解する。
		1	30	基礎看護学援助論Ⅱ （療養環境に関する技術）	1. 人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための知識と援助を習得する。 2. 感染予防の基本的知識及び、感染予防を推進する技術を習得する。
		1	30	基礎看護学援助論Ⅲ （安楽・活動と休息 に関する技術）	1. ボディメカニクスの基本原理を理解し、安全・安楽な体位で効果的・効率的にケアできる基本的な方法を学ぶことが出来る。 2. 人間の活動（運動）・休息の意義を理解し、健康生活を送るための援助ができ、安楽な体位の援助ができる。 3. 医療安全の基本的知識について理解し、防止法について学び習得できる。
		1	30	基礎看護学援助論Ⅳ （清潔・栄養・排泄に 関する技術）	1.清潔保持に関する生理的メカニズムを理解し、対象の清潔援助時のアセスメントを行い適切な援助方法を選択し実施できる。 2. 栄養と食事のニーズ・排泄のニーズを充足するための基礎的知識と援助方法を理解し、習得する。
		1	30	基礎看護学援助論Ⅴ （観察技術 （ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄに 関する技術））	一般状態の観察・生命兆候としてフィジカルアセスメントの基礎知識・技術を習得する。
		1	30	基礎看護学援助論Ⅵ （検査・与薬 に関する技術）	1. 与薬（薬物療法）における法的根拠・目的・用途・方法の基礎知識・技術を理解し、与薬を受ける患者への安全かつ正確に行う援助技術を習得する。 2. 皮膚創傷を管理する知識を理解し、創傷を管理する援助ができる。 3. 検査・治療の意義及び、看護師の役割を理解できる。

領域	区分	単位	時間数	授業科目の名称	学習のねらい
専門分野Ⅰ	基礎看護学	1	30	基礎看護学援助論Ⅶ（看護過程）	看護を行う上での思考過程として概要を学び、看護の対象者がもつ問題を明確にして解決していく過程を習得する。
		1	30	基礎看護学援助論演習	看護の対象とする対象の疾患、症状、治療・処置を関連付け、看護技術のエビデンスに基づき、基本技術・援助技術を統合し、援助を実践するための基礎的能力を習得する。
	臨地実習	1	45	基礎看護学実習Ⅰ	人々の生活を環境と健康の関係から理解し、看護を実践していく基盤を形成する。つまり実習での体験を意味づけ、看護を学ぶ動機づけをする。入院している患者との出会い、対象を取り巻く環境や基本的欲求を理解する。
		2	90	基礎看護学実習Ⅱ	人々の生活を環境と健康の関係から理解し、看護を実践していく基盤を形成する。つまり実習での体験を意味づけ、看護を学ぶ動機づけをする。 看護過程という看護の専門技術を使って看護を体験し、科学的な看護の意義を理解し、各看護学へと発展させていく基盤とする。
専門分野Ⅱ	成人看護学	1	30	成人看護学概論（看護の対象と目的）	1. 成人期における対象の特性を理解する。 2. 生活習慣やライフサイクルと健康問題との関連を理解する。 3. 成人の学習の特徴を活用した健康行動促進のための看護アプローチを理解する。 4. 成人看護の役割を理解する。 5. 成人看護に有用な諸理論を理解する。
		1	30	成人看護学援助論Ⅰ（生活行動に障害のある患者の看護）	1. 健康障害がもたらす役割変化と自己概念の受容を理解する。 2. セルフケア能力再獲得に向けた援助を理解する。
		1	30	成人看護学援助論Ⅱ（周手術期にある患者の看護）	1. 手術に伴う身体侵襲を理解する。 2. 手術に伴うボディイメージの変化を理解する。 3. 機能の障害・喪失に対する援助を理解する。 4. 手術後の自己管理に関する援助を理解する。
		1	30	成人看護学援助論Ⅲ（緩和ケアを必要とする患者の看護）	1. 緩和ケアにおける全人的な痛みを理解し、その援助法を学ぶ。 2. 死にゆく人の心理過程を理解する。 3. 緩和ケアにおける家族の悲嘆に伴う援助を理解する。
		1	30	成人看護学援助論Ⅳ（生命の危機的状態にある患者の看護）	1. 生命危機状態にある対象の身体的特徴を理解する。 2. 生命危機状態にある対象および家族の心理、社会的特徴を理解する。 3. 救急時の基本的技術を習得する。 4. クリティカルな場における看護の役割を理解する。
		1	30	成人看護学援助論Ⅴ（生涯にわたり健康コントロールを必要とする対象者の看護）	1. 疾病をコントロールしながら生活する対象を理解する。 2. 成人の学習の特徴をふまえ、セルフマネジメントと自己効力感を高めるための援助を理解する。
	老年看護学	1	30	老年看護学概論（看護の対象と目的）	1. 老年者を取り巻く社会の動向を理解する。 2. 老年者の身体的、心理的、社会的特徴を理解する。 3. 高齢社会における保健医療福祉制度や施策を理解する。 4. 老年看護の役割と機能、看護活動の場を理解する。
		1	30	老年看護学援助論Ⅰ（老年期の日常生活援助）	1. 老年者の日常生活上における援助ニーズを理解する。 2. 老年者の特性をふまえた援助方法を理解する。 3. 老年者のQOL向上を目指した健康増進プログラムを理解する。
		1	30	老年看護学援助論Ⅱ（老年期の健康障害時の看護）	1. 老年者に特有な健康障害を理解する。 2. 健康障害に応じた援助方法を理解する。
		1	15	老年看護学援助論Ⅲ（老年期の健康障害時の援助技術・看護過程）	1. 事例を基に健康障害をもつ健康問題を理解する。 2. 事例を基に健康障害をもつ老年者の看護過程を展開する基礎的能力を養う。
	小児看護学	1	30	小児看護学概論（看護の対象と目的）	1. 小児の成長発達と発達課題を理解する。 2. 小児のヘルスプロモーションと看護を理解する。 3. 小児を取り巻く社会状況と動向を理解する。
		1	30	小児看護学援助論Ⅰ（小児の療養環境と看護）	1. 健康障害や療育環境が小児と家族に及ぼす影響について理解する。 2. 小児の成長発達・健康上の課題に応じた看護を理解する。
		1	30	小児看護学援助論Ⅱ（小児の主な疾患と看護）	1. 小児に出現しやすい健康障害および診断・治療に関する基礎的知識を理解する。 2. 小児看護に必要な看護技術を習得する。
		1	15	小児看護学援助論Ⅲ 疾病・障害を持つ小児と家族の援助技術（看護過程）	1. 小児の成長発達・健康問題に応じた看護を理解する。 2. 健康障害が小児と家族に及ぼす影響を理解する。 3. 事例を基に健康障害をもつ小児の看護過程を展開する基礎的能力を養う。
	母性看護学	1	30	母性看護学概論（看護の対象と目的）	女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進を目指した看護の基礎的な知識と技術を習得し、次世代の健全育成を目指す看護について理解する。
		1	30	母性看護学援助論Ⅰ（妊産褥婦・新生児の生理機能）	妊産婦のマタニティサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴及び、新生児の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。

領域	区分	単位	時間数	授業科目の名称	学習のねらい
専門分野Ⅱ	母性看護学	1	30	母性看護学援助論Ⅱ （妊産褥婦の看護と周産期にあるハイリスクの看護）	褥婦・新生児の看護、周産期にある対象が順調に経過をたどるための看護師の役割・援助方法について基礎知識を学び、異常の早期発見・健康回復のための援助を理解する。また、正常経過にある母子をウェルネスの視点で捉え、よりよい状態に向かえるよう知識を活用する。
		1	15	母性看護学援助論Ⅲ 妊産褥婦・新生児の援助技術 （看護過程）	事例の展開を通して、対象を統合された存在として理解し、健康レベルに応じて科学的根拠に基づいた援助ができる基礎的能力を養う。
	精神看護学	1	15	精神看護学概論 （看護の対象と目的）	1．ライフサイクルにおけるこころの健康問題を理解する。 2．社会の価値規範やしくみが心の健康に及ぼす影響を理解する。 3．精神保健医療の現状をとらえ、精神看護の役割と機能を理解する。
		1	30	精神看護学援助論Ⅰ （精神疾患の理解と治療）	1．主な精神障害とその症状を理解する。 2．こころの健康障害を持つ対象の苦悩と援助を理解する。 3．こころの健康障害のある対象の権利擁護の現状と課題を理解する。
		1	30	精神看護学援助論Ⅱ （精神看護の実際とその倫理）	1．ノーマライゼーションと精神科リハビリテ-ションの現状を理解する。 2．こころの健康障害を持つ対象の社会復帰や自立に向けた援助をを理解する。
		1	15	精神看護学援助論Ⅲ （精神障害のある患者の援助技術・看護過程）	1．ロールプレイングを通して治療的人間関係の成立と発展過程を理解する。 2．プロセスレコードの再構成、考察する必要性を理解する。 3．事例を基にこころの健康障害をもつ対象の看護過程を展開する基礎的能力を養う。
	臨地実習	2	90	成人看護学実習Ⅰ	慢性の経過をたどる患者への看護を通してセルフコントロールを促すための看護を学修する。患者が疾患や障害を受容していく過程における患者理解と支援、健康障害を持ちながら生涯にわたり、疾患をコントロールし、社会生活を送るための患者や家族への指導方法を学修する。
		2	90	成人看護学実習Ⅱ	手術を受ける患者の術前・術中・術後の看護を実践し、回復に向けての患者と家族への看護を患者と家族への看護を学修する。
		2	90	成人看護学実習Ⅲ	健康の急激な破綻状況にある対象あるいはターミナル期にあり、生命の危機状態にある対象と家族への看護を学修する。
		2	90	老年看護学実習Ⅰ	老年期の特徴を理解し、健康レベルに応じた看護を学修する。 自立した高齢者を対象として、健康を維持してその人らしく生活していくための看護を学修する。
		2	90	老年看護学実習Ⅱ	老年期の特徴を理解し、健康レベルに応じた看護を学修する。健康障害や治療のため自立した生活を送ることが困難である高齢者を対象とし、セルフケア能力を高めることを目的とした残存機能を踏まえた看護を学修する。
		2	90	小児看護学実習 （保育所実習30時間を含む）	子供の成長・発達を促すための看護を学修する。保育所や医療福祉施設で生活している子どもとの関わりを通して、子どもの成長発達を観察し、看護の役割を学修する。さらに健康障害が子どもの発達に与える影響を踏まえ、健康回復・健康保持増進への看護を学修する。健康障害をもつ母親・父親への理解と支援について学修する。
		2	90	母性看護学実習	周産期にある母子およびその家族の特性を理解し、母子の健康と親子関係の促進を目指した援助を実践できる基礎的能力を習得する。その方法として、母性看護の対象の健康問題をアセスメントし、正常過程にある母子をウェルネスの視点でとらえ、よりよい状態に向かうための看護を習得する。
		2	90	精神看護学実習	こころの健康障害をもつあらゆる発達段階の人を対象として、こころの状態をコントロールしながら生活するための看護を学修する。
統合分野	在宅看護論	1	30	在宅看護概論 （看護の対象と目的）	在宅介護の歴史や社会的背景を踏まえ、地域で生活しながら療養する人々及び障害を持ちながら生活する人々と、その家族の特性を理解し、在宅における看護活動に必要な基礎的知識・技術・態度を学習する。
		1	15	在宅看護援助論Ⅰ （在宅療養者に関連する制度と展開）	在宅ケアシステムにおける看護の役割と在宅看護における多職種との連携・協働の在り方、展開における各制度を学習する。
		1	30	在宅看護援助論Ⅱ （在宅における日常生活援助技術と実際）	在宅療養者の日常生活を総合的に情報収集し、個々に応じた援助を見極めるためのアセスメントを行い、求められる基本看護技術・特殊な看護技術を学習する。
		1	15	在宅看護援助論Ⅲ （在宅援助技術・看護過程）	在宅看護過程の特徴を学び、在宅看護を展開する。一連の過程である情報収集、アセスメント、実践、計画を学ぶ。また、事例を通して対象別の在宅看護過程の展開方法を学ぶ。
	看護の統合と実践	1	30	医療安全論	人間は間違いをおかす存在であることを自覚したうえでエラーを防止するために、看護業務や行為の視点から「してはならないこと」「するべきこと」を明確にし、患者の安全を守るために必要不可欠な知識・技術を習得する。
		1	30	看護管理	保健医療施設などにおける組織的看護サービス・管理の本質を学び、管理的思考や医療機関を取り巻く環境の変化と看護管理への影響について理解する。
		1	30	災害・国際看護学	1．地域を守るための防災対策や救護・看護について学び、看護師としての役割を理解する。 2．災害や世界の保健医療の現状を知り、国際救援活動と国際看護活動における看護の必要性と役割について理解する。
		1	30	看護研究	1．研究の意義と方法を理解する。 2．看護活動と研究の関連について理解し、看護研究の基礎を学ぶ。
		1	30	統合看護演習	これまでに学んだ知識・技術を統合し、看護学実習に即した方法を用いて援助を行い、対象の状況に応じた判断による基礎的な実践能力を養う。
	臨地実習	2	90	在宅看護論実習	あらゆる発達段階にあり、性別、領域を問わないものとし、在宅で療養する対象とその家族への看護を学修する。訪問看護活動や地域における保健活動を知ることにより、地域社会で充実ある生活ができるための基礎的な看護実践能力を養う。
		2	90	統合実習	今まで学んだ知識・技術・態度をもとに看護実践能力を高めることを目指す。複数の患者を複数の学生で受け持ち、看護上の問題の優先性を考えたうえでの看護体験する。看護管理の実際を知ることにより、看護チーム及び医療チームにおける看護師の役割を学修する。

基礎分野

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
基礎分野	人間の生活・ 社会の理解	死生学	1	30	3学年後期	稲村　秀一

授業目標	生物的生命の限界である「死」は必ずやってくる。この死をいかに受容（理解）するか。この死に向かって、いかに「生きる」かが問われなければならない。この「生と死」の関係を巡って、東西の哲学・宗教思想史ではどのように考えられてきたのかを検討する。医療の現場で、死にゆく人に立ち会う看護者には自らの死生観が問われるが、そのための準備に役立つことを目指す。

授　業　計　画		担当	備考
1	序論　―⑴死生学とは、死生学を学ぶ意義 ⑵確かな生物的死とその受容	稲村	講義
2	第１章　現代社会と死の現象 ⑴死の忘却へと誘惑する現代 ⑵「生の中に死が在り、死のなかに生がある」		
3	第２章　死と「いのち」の多様な現象 ⑴＜円熟としての死＞と＜不慮の死＞ ⑵生物的死を超えて生き続ける＜人格のいのち＞		
4	第３章　人間における「生」と「死」の意味 −人間存在の五次元の「生と死」について−		
5	第４章　西洋思想史における人間観と死生観 ⑴ギリシア哲学（ヘレニズム）の観点		
6	⑵キリスト教思想（ヘブライズム）の観点		
7	キリスト教思想（ヘブライズム）の観点（続） ⑶現代の実存主義思想（キルケゴール、ハイデッガー，サルトル）の観点		
8	第５章　東洋思想史における人間観と死生観 ⑴仏教思想の観点		
9	仏教思想の観点（続）		
１０	⑵儒教思想の観点		
１１	第６章　日本人の人間観と死生観 ⑴日本人の伝統的な人間観		
１２	⑵日本人の一般的な死生観		
１３	日本人の一般的な死生観（続）		
１４	第７章　祝福される死　−われわれの死生観についての＜まとめ＞−		
１５	終講試験　まとめ		

評価方法	授業の理解をレポート（30%）・終講試験（７0%）で総合評価する
テキスト	テキストは使用しない。毎回資料を配付する。
参考図書	授業中に指示する。
履修上の注意点	「死と生」について問題意識を持って真摯に授業を聴き、理解し各自の考えを明確にすること。

統合分野

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
統合分野	看護の統合と実践	看護管理	1	30	3 学年前期	川島保子 井上順子 多田由美子 平田優樹 橋本三智子

授業目標	1．チーム医療及び他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解し、看護をマネジメントする基礎的能力を身に着ける事が出来る。

授業計画		担当	担当
1	1．看護とマネジメント 1)　看護管理学とは　2) 看護におけるマネジメント	平田	講義
2 3 4	2．看護ケアのマネジメント 1) 看護ケアマネジメントと看護職の機能　2) 患者の権利の尊重 3) 安全管理　4) チーム医療　5) 看護業務の実践	橋本	
5 6 7	3．看護職のキャリアマネジメント 1) キャリアとキャリア形成　2)看護職のキャリア形成 3)看護専門職としての成長（社会化）4)タイムマネジメント 5)ストレスマネジメント	多田	
8 9 10 11	4．看護サービスマネジメント 1)看護サービスのマネジメント　2)組織目的達成のマネジメント 3)看護サービス提供のしくみづくり　4)人材のマネジメント 5)施設・設備環境のマネジメント　6)物品のマネジメント 7)情報のマネジメント	川島	
12	5．マネジメントに必要な知識と技術 1)マネジメントとは　2)組織とマネジメント 3)リーダーシップとマネジメント　4)組織の調整	川島	
13 14	6．看護を取り巻く諸制度 1)看護の定義　2)看護職　3)医療制度　4)看護政策と制度	井上	
15	終講試験　まとめ		

評価方法	終講試験　100%
テキスト	・系統看護学講座　看護の統合と実践　看護管理　医学書院
参考図書	・新体系　看護学全書　統合分野　看護の統合と実践　看護実践マネジメント/医療安全 編集：小澤かおり　第 4 版　メヂカルフレンド社, ・看護六法　新日本法規,
履修上の注意点	グループワークや確認テストなどを取り入れ実施

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
統合分野	看護の統合と実践	災害・国際看護学	1	30	3 学年前期	内門 弘子 湯浅　有加里 畑島由美子

授業目標	１．災害時に看護が果たす役割、災害各期における看護支援活動を理解する。 ２．災害を理解し、災害看護活動に必要な基礎的知識を学ぶ。 ３．国際社会において、グローバルな視点に基づき国際的な看護・保健上の問題を理解する。 ４．諸外国の看護を理解し、看護の国際協力における組織・仕組みについて理解する。

	授　業　計　画	担当	備考
１ ２	Ⅰ．災害看護 １．災害の概要　１）災害看護の歴史 ２）災害医療の基礎知識 ・災害の定義、分類、原因　・ＣＳＣＡＴＴＴ　・DMAT ・災害と情報　・トリアージ ３）災害看護と法律	湯浅	講義
３ ４	２．災害看護　１）災害看護の定義 ２）災害サイクルに応じた看護 ①急性期・亜急性期　・避難所における看護師の役割 ・災害と感染制御 ②慢性期・復興期 ・仮設住宅における生活支援と看護の役割 ・被災者の生活に必要なリハビリテーション ③静穏期　・災害時の自助と共助 ・災害時への備え ３）被災者特性に応じた看護 ①子ども　②妊産婦　③高齢者　④障害者 ⑤精神障害者　⑥慢性疾患患者　⑦在日外国人 ４）こころのケア	畑島	
５ ６	３．災害看護の展開 １）グループワーク：災害各期における看護をまとめ、発表	畑島	演習
７	４．災害看護の実際	湯浅	講義
８ ９ １０ １１ １２ １３	Ⅱ．国際看護 １．国際看護学の定義 ２．グローバルヘルス　・世界の健康問題の現状 ３．国際協力のしくみと関連する法律・国連機関、政府機関、国際ＮＧＯなど ４．文化を考慮した看護　・ＥＰＡ、ＦＴＡ ５．国際救援活動の基本理念 ６．国際看護活動の実際 ７．発展途上国と看護 ８．国際救助と看護る	内門	講義
１４	国際看護まとめ		
１５	終講試験　まとめ		

評価方法	終講試験（災害看護学 50%・国際看護学内門 50%）　GW、レポートは評価対象である
テキスト	・系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践③　災害看護学・国際看護学 著：浦田喜久子(他)
参考図書	・国際看護　言葉・文化を越えた看護の本質を体現する　学研　編：一戸真子
履修上の注意点	グループワークの資料は各自、グループで準備する。発表は、ＰＰＴや掲示物など工夫する。